



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 池田英雅

第14号

Read Way

真言宗豊山派佐渡宗務支所支所長 池田 英雅



池田英雅 支所長

今年も夏の甲子園は第百回の記念大会ということもあり連日熱戦を繰り広げていました。公立高校の活躍もあり、球児の躍動に心打たれた方も多いと思います。ただ、酷暑の中の連戦の選手、応援団、観客・野球の本場アメリカ人は、この光景をクレイジーと評しています。炎天下での開催について苦言を呈する方もいますし、ともかく少し聞く耳を持った方がいいかもしれませんね。

「聞く耳を持つ」人の意見を聞き入れること、確かにこだわりを持つていることに他人から意見をされると気分の良いことではないですが「逆もまた真なり」ということもありますし、すべての人の意見を聞き入れることこそ仏教徒として大事な姿勢ではないかと、最近そのように強く感じています。

「中道」偏らない真理を求める正しい道すじ、意識すればこうなるでしょうか。当たり障りの無い誰もが納得する最良の方法、字面からするとそう感じるかもしれませんが(中庸と同義)そうではなく全ての手段を網羅し試してみることに、私はそう考えています。交差点を渡るのに信号機もあれば歩道橋もあるし、スクランブル交差点もある・そんな感じでしょうか。もちろん信号無視は絶対駄目です。夏の甲子園大会もナイター開催など意見を出し合ってみてはと思います。ビールの美味しい季節ですし(えっ?) 仏様の教えは無辺でありますし到底、無理かもしれませんが少しずつ仏様の教えを理解していき、付度という名のもと風見鶏のように生きていくのではなく、他人の意見を傾聴し自分の意見を主張していきたいと考えています。ただし、女性のワガママにはお付き合い致しません。

平成三十年十一月一日発行
真言宗豊山派 発行責任者 池田 英雅
佐渡宗務支所 編集委員長 加藤 龍久

ストウパー(仏塔)について

真言宗豊山派佐渡宗務支所副長 平井 英昭

今夏、光明と一緒に配布されたリーフレット『お塔婆(卒塔婆)』の中で、塔婆の原型となったストウパーを平成二十八年インド研修旅行で見学したので紹介いたします。場所は、デリーの南方約五八〇kmにあるサンチー仏教遺跡(世界文化遺産：一九八九年登録)で、遺跡の中心となるのが第一ストウパー(写真)です。

高さ十六m、直径三六mです。ストウパーの構成はほぼ半球状の覆鉢の頂部を平らに削り、そこを柵で正方形に囲って、「平頭(ひょうず)」とし、ここに舍利容器を納めたと考えられますが、調査の結果舍利容器は見当たらなかったとのこと。平頭の中心には「傘竿(さんかん)」が立ち、その上部に三重の「傘蓋(さんがい)」が載るとのことです。ストウパーの三mと五mの位置に礼拝用の「繞道(にょうどう)」があり、インドでは時計回りの方向で礼拝することです。繞道への入口には東西南北にトラナという記念門があり、トラナにはお釈迦様の苦行・悟りや、初転法輪、生前の様子を描いた彫刻(レリーフ)がくまなく施されています。

さてストウパーにとって肝心なお釈迦様の遺骨ですが、デリーにあるインド国立博物館では、金の塔のガラスケースの中に納められている、お釈迦様の遺骨を見ることが出来ます。今を遡る二、五〇〇年前に、この大地で悟りを開かれ、初転法輪されて仏教の礎を築かれた釈尊の遺骨が、実際にこの世にあるとは勉強不足でした。大変貴重な体験をさせていただきました。



ストウパーの前で記念撮影

法事の時お塔婆を建立することにより、お釈迦様を慕い、先祖を敬い、自己を供養する仏教徒としての自覚をさらに深めていただきたいと思います。

発行所
新潟県佐渡市新穂大野二二四-1
清水寺中
真言宗豊山派佐渡宗務支所

「絵本・紙芝居の読み聞かせ」実施報告

真言宗豊山派佐渡宗務支所 布教長 加藤 龍久



社会貢献活動の取組みとして、「絵本・紙芝居の読み聞かせ」活動を実施しました。佐渡市泉 平泉保育園の谷地田雅将園長先生(正法寺御住職)のご厚意により毎年実施させていただいております。平成二十九年度は十一月二十五日、土曜日に実施しましたので、普段より園児の皆さんが少ない中で絵本・紙芝居の読み聞かせになりました。両津在住の橋本美子様を講師にお願いしました。ありがとうございました。

教師勉強会報告・平成三十年一・二月実施

報告者 加藤龍久

勉強会のテーマは「佐渡支所下 寺院をとりまく現状と解決策」です。少子高齢化は日本国の課題であり、佐渡においては六十五歳以上人口の割合は四三・六%、出生数は年間約四〇〇人、死亡数は年間約一、〇〇〇人という現状です。(お盆期間の人口が常に佐渡に住んでいてくれたら賑やかで、活気があっていいなあと思います。)

佐渡市における少子高齢化、人口減少は地域社会や経済に影響を及ぼしています。寺院を取り巻く現状もこの十年で大きく変容してきました。話し合った寺院を取り巻く現状を箇条書きで挙げてみます。

①自宅での葬儀が激減、セレモニーホールでの葬儀が激増 ②家族葬の増加、葬儀の簡略化 ③葬儀時の僧侶人数激減、組寺相互扶助関係の希薄化、崩壊 ④お経の唱え方、作法など僧侶の資質低下 ⑤寺院行事への参加者が減少、檀信徒の信仰心希薄化

勉強会に参加した教師(僧侶)は、急激に変化する現状を出し合い、その話し合いの中からそれぞれの僧侶が尽力している事、工夫している事を学ぶことができました。少子高齢化、人口減少で世の中が大きく変化していく中、寺院のあり方、信仰のあり方、仏教存在の意義を追究していかなければなりません。

全国檀信徒総代協議会に参加して

支所下二十三番 定福寺檀信徒総代 宇留間 壯



定福寺総代 宇留間 壯氏

平成三十年六月十一日・十二日の二日間、奈良県橿原市の大和ロイヤルホテル及び総本山長谷寺において開催の第七十次全国檀信徒総代研修会・協議会に参加してきました。全国から豊山派の檀信徒四十二名が参加、新潟県から越後三名、佐渡一名の計四名が参加しました。

一日目の研修会では、真言宗豊山派宗務総長の星野英紀総長による「総本山長谷寺のたまたまいを永遠に私たち豊山派の願い」と題してのご講話を受けました。その中で、某国指導者が自国中心主義のため隣国との間に壁を立てると主張したり、核兵器実験を強行し自分たちの主張を受け入れさせようと強弁している世界の動向の中で、仏教はなるべく壁を立てない宗教であり「真言宗も基本的に壁を立てない」と話されたことが印象に残りました。

次に協議会に移り、開会式において田代弘興管長より新任議員に袈裟親授式が行われお言葉を賜りました。その後協議会の議事が進行され、今年度の方針と各地区の現状と課題が報告され閉会しました。

夜の懇親会では群馬県と新潟県の参加者が同じテーブルを囲み、和気あいあいの雰囲気の中で、過疎と高齢化により、どの地域でも寺院の維持が大変だという意見が多く出ていました。

二日目は総本山長谷寺に移動し、本堂にて特別法要と田代管長による御垂示を賜った後に記念撮影を撮り諸堂を参拝し解散となりました。

初めての総本山参拝という緊張感の中で、総本山長谷寺の布教・教化活動に努められている真摯な姿勢や各地区の現状と課題を知ることができ、大変有意義な研修会に参加できたことに感謝を申し上げ、ご報告に代えさせていただきます。

真言宗豊山派佐渡仏教婦人会支部長に就任して

支所下二番 慶宮寺寺庭婦人 金子 ルリ子



慣例により仏教支部長を各地区から持ち回りで選出しています。今回は同じ畑野地区の先輩から若い会員の方への推薦依頼がありました。が受けてもらえなく、年齢順となり平成三十年四月一日より標記の役職に就くこととなりました。

会員の名簿を拝見しましたら若い会員も見受けられ研修会(平成三十年六月三十日、慶宮寺本堂で開催)に親子、お孫様も一緒に参加できる体操を案内しました。当日は整体師、宝蔵寺副住職、中川泰雄先生より足腰によい体操を指導していただきました。

カラフルなゴム紐を肩、腰、足にまいて姿勢から直し、皆、「もう少し時間が欲しかった。」「膝と腰が治ったみたい!」「明日から境内の草取りが出来るわ。」と満足そうで、無理なく日頃の疲れをほぐす事ができました。

今後、一人でも多くの皆様が出席できますように、活動の在り方を考えていきたいと思えます。ご指導よろしくお願い致します。

第四十二回青少年研修会

仏教青年会会長 中濱 照文

夏休み前の平成三十年七月二十一・二十二日、支所下七十四番、浦川文殊院道場に於いて青少年研修会を開催。

昨年にも続く二年連続という事もあり参加者は、なっ、なんと三十六名!これには先生方もびっくりの大人数でしたが、素直な子供達ばかりで猛暑の中、一生懸命に研修をこなし、無事終了証を一人一人に手渡すことができました。

二日間、皆様お疲れさまでした。

青少年研修会作文

加茂小学校 六年 中濱 璃利香

私は六年生なので研修会は今年、最後です。まだ二回しか参加してないのですが、とても楽しい思い出ができました。その理由は三つあります。

一つ目は海水浴です。今年は去年よりも人数が多かったので、いろんな人と鬼ごっこをしたり、リレーをして友達が増えました。

二つ目は浦川野外フェスです。花火をした後に皆で「USA」という曲に合わせて踊りました。去年はこんな企画がなかったので、とても楽しかったです。

三つ目は座禅をしたことです。座禅は姿勢がずつと保てなくて足もしびれて疲れましたが、最後まで頑張って続けることができました。



平成30年 7月21・22日 於:佐渡市浦川 文殊院道場

きたので良かったです。

友達がたくさんでき、先生方のお話やお経の勉強もとても良い経験になりました。一年生の時から参加していましたが、この研修会のことでは思い出に残して一生忘れないでいこうと思います。指導していただいた先生方に感謝しています。

「ありがとうございます。」



発心式(灑水加持)

ご本尊の智慧香水で加持し、菩提心を発し保持していくことを誓います。

寺院探訪

佐渡宗務支所下六十五番

晃明山 観音寺
こうみょうざん かのんじ

佐渡市月布施

住職 小野 法龍

当寺は目の前に越佐海峡が広がり、本州に角田・弥彦の両山を臨む小佐渡前浜の段丘上に位置し、空気の澄む晩秋から冬には県庁ビルや西港の煙突を始め、遠くには雪を被った飯豊山地や越後山脈をパノラマのように眺望できます。

開山・創建は不明ですが、天正十六年の寺社帳にその記載が認められることから、西暦で言えば一五八八年以前の創建と考えられています。現在の観音寺は明治三十年(一八九七)の大洪水で村内に並立していた天文元年(一五三二)創建の吉祥寺が流失してしまったことを契機に、海岸に近い立地からの風波被害を危惧し両寺合寺の上、大正三年(一九一四)先住、山本浄逮師代に今の高台の地に再建されたものです。

本尊は念ずれば誰をも極楽浄土にお導きになる阿弥陀如来様で、歴史を感じさせる柔和なお顔で人々の信仰を集めています。『月布施』はその村名からうかがえるように『大師岩』や『お舍利さん』など仏教色豊かな言い伝えの残る土地柄で、四十足らずの戸数ではありませんが、篤い信心の力で当寺は守られています。

今年(二十二年)は十二年前ぶりに久知護摩法要の道場を担う年回りで、本間久知殿の戦国の時代から領内の安穩を祈願し、毎年欠くこと無く四百五十年以上も継承されてきた大事業が控え、勤修日の十一月二十四日に向け、無魔吉祥の円成を期して、檀信徒一丸となり取り組んでいるところです。

観音寺本堂



観音寺宝物・興教大師掛軸

佐渡宗務支所下七十番 金福山 理性院
きんぷくざん りしやういん

佐渡市加茂歌代

住職 齋藤 俊恵

◎理性院の開山―盗まれた虚空蔵菩薩像と長徳寺の画像

寺記によると昔、加茂邑城の湖の西北に一草庵があり、虚空蔵菩薩の画像を安掛し里人が信仰していた。その草庵の名は長徳寺と称す。

年代は定かではないが出羽庄内の道人が都にて虚空蔵菩薩の尊像を厳飾し還る途中、海上で逆風に遇い能洲福浦に寄泊する。運悪く旅舎にて尊像と路金を盗まれてしまったが、夜、夢枕に佐渡で本尊に値遇するであろうとのお告げがあり、それを信じ翌日、小木の港に着く。

加茂湖の草庵に至り元来安置されていた画像が、盗難された尊像と同じと感得し改修して宝坊をなした。その際、金福山、理性院と称す。幾多の年月を経て人皇百四代、後柏原天皇時、文龜三年(一五〇三)法印賢栖和尚が住され、浄財を集めて本堂を建立し中興開山となった。

※ご本尊、虚空蔵菩薩(秘仏)は広大無辺な大悲利生をもたらす菩薩。頭頂に宝冠、左手に蓮華、右手に利劍のお姿で、順に五智、福德、智慧を現す。

◎両津護摩について

現在、両津地区真言宗豊山派寺院六ヶ寺が「両津護摩仲間寺院」として十二年に一度の当番寺を務めています。

法要は「不動息災護摩供」と「大般若轉読会」です。五大明王様を本尊として内陣の護摩壇で護摩を焚き皆様の「祈願がかなうよう明王様に「加護を授けていただくのが「不動息災護摩供」です。

釈迦十六善神を本尊として執り行うのが「大般若轉読会」です。干支と同じ十二箱に納められた六百巻の経本をパラパラと操り(轉読)その時の風(梵風)を受けると身体健固になると伝えられています。

当日は渋いイブシ銀の老僧の声と、清々しい青年僧の声の「ハーモニー」が堂内に満ちて荘厳な法要です。

当山が平成元号の終了する年に当番寺を務める機会(六月十三日)に巡り合せていただいた事に感謝し、自然に対する畏敬の念を持ち平成年度を納めたいと思います。

理性院本堂

